

弓道いばらき

平成16年3月 第26号

発行所 那珂郡東海村
村松1292-2
茨城県弓道連盟
電話 029-282-3580

近 少年女子的 石岡商高 優勝



左より、磯山 博生 選手・芦田 侑果 選手・高田 由美 選手

「第58回 国民体育大会 NEW!!わかふじ国体」

秋季大会 10月25日~10月28日

県弓連の一層の発展を願って
全日本弓道連盟理事
全日本学生弓道連盟会長
茨城県弓道連盟相談役

横山 亮次



私は、旧制・太田中学校在学の時、本田流の発展に寄与されました。茨城県出身の大内先生の弟である蘇原先生に弓の学びを教えられました。この教えが基となって、日立製作所多賀工場に勤務し、昭和24年に鈍土号から、徳川時代初期に各流派の長所を取り入れ、心の弓学びとして知られた大和流が水戸家に定着した事に加わって、私は茨城県の弓学びに限りなく親しみをもち続けてきました。

その事もあって私は平成2年県西地区高等学校PTA関連総会で講演し、終了後に何人かの校長先生から県西地区高等学校の生徒達の弓道大会を開催する弓道場がないと語りかけられた時、茨城県高等学校の生徒達に心の弓学びに励んでもらうことは、水戸家に伝わっている伝統を守る事だと思ひ、平成3年

下館にある日立化成工業株式会社五所宮工場敷地内に弓道場を建設し、この道場を五枚館と名付けました。それ以来今日までたゆむことなく、県西地区高等学校弓道大会が開催されていることを喜んでいます。

私は平成7年、35年振りに故郷である常陸太田市に帰郷しました。これからは水戸市へ向く武道館で、水戸家ゆかりの心の弓学びができるものと喜んだものでした。

この喜びは武道館で弓学びをされている方々と親しくなり、水戸家ゆかりの心の弓学びにお互いが励み、その学び姿が武道館道場に育ち、茨城県内の弓友への励ましとなっていたことです。

終わりに、私が身につけていたす弓の学び五則を付記させていただきましたと共に、茨城県弓道連盟の益々の発展を祈念申し上げます。

弓の学び五則

- 一、的を射とし知と敬を学ぶは弓の道なり。
- 一、心の習得から集中力を学ぶは弓の道なり。
- 一、鋭い眼力から決断力を学ぶは弓の道なり。
- 一、心の養いから先見性洞察力を学ぶは弓の道なり。
- 一、無限に響く残心から智慧のたごまりと包容力を学ぶは弓の道なり。

競技力の向上と底辺の拡大を

茨城県弓道連盟会長

関 宗長



新しい年を迎え、弓友の皆さんには今までにはなく幸多き素晴らしい年でありませうお祈りいたします。

お陰様で、この一年間充実した指導陣のおかげで円滑な運営活動ができて感謝申し上げます。

また、平成十五年度国民体育大会秋季大会弓道競技において少年女子団体が石岡商業高等学校が優勝の栄に輝くとともに、総合でも天皇杯三位皇后杯四位と立派な成績を残してくれました。これも偏ら指導者並びに選手の方々のたゆまぬ精進と努力の結果であると確信しています。

今年も、昨年の実績をふまえて弓道の基本をみつめ、弓道の充実・発展のために何をなすべきかを指導者全員で再確認し、今年の目標に向かって努力していかねばならないと痛感しているところです。

今年の目標は、昨年に引き続き継続していきます。

◎尊敬される指導者に

指導者は、弓道人の仲間から尊敬され、憧れの人となるために、指導者としての必要な教養と指導力を身につけるとともに、自分に厳しく修練を積み重ねて、手本となつてほしいのです。

◎高段者は弓道発展に努力を

高段者は、役員として管理・運営の経験を重ねてください。

◎競技力の向上を

弓道がスポーツである限り、競技に勝つことが大切です。そのためには、基本的な体力と精神力を養い、絶えざる修練を積み重ねながら、一層の競技力の向上を図つてほしいものです。

◎弓道人の底辺の拡大を

中学校・高等学校の弓道部の育成と拡大をしていきたいものです。卒業後も弓道を志してくるための工夫をした指導をお願いします。また、生涯スポーツとして、一般人のための弓道教室等を開設して、底辺の拡大を図るべく努力して下さい。

今年八月に第一回全国中学生弓道大会が開催されますので、本県中学生の張り身に期待しています。この機会をたぐらえて、弓道の楽しさを中学生に伝えたいものです。



日立市弓道場



日立市弓道場

手の内の作り方

副会長 柴田 猛

誰もが心の奥にあるのが的中率の向上であろう。的中がままならない人は、自分自身の中を求めるものでなく、弓道との関いの中にあるのであると言ふ。こののみを追求する中で「弓」は、さほど難しくはない。中るだけならば百本引いても弓手と妻手がパランス良く全く同じように離す訓練をすれば中る。しかし長続きはしない。ではどうすれば中る弓を引くことが出来るのか。先ず射法射技の基本の確立を図ること。そしてその基本である手の内の働きを身につけることである。

以下、現在の私の手の内の整え方を述べてみる。正面打越しの例である。

中葉小の三指の付け根を弓の外竹の左側に当て、指の間を透かきぬよよに三指を揃えて軽く曲げ、拇指は中指の爪に半分重なるように乗せ稍反さの心持ちで整える。小指と薬指人指と中指の間に鉛筆を挟めるくらい広げると同時に拳に中空が出来るように拇指小指の付け根を近づけ、人指中指の付け根は外竹につかないように広げる。その時の手の甲は貝殻を伏せたように稍丸みをおぼる。

握りは貝の身である。従って手と弓の接する面は密着しているのはなく、真直で弓を握るむよよの内、貝殻であることを忘れないこと。

この時の注意点は、弓と手の内の十文字を崩さぬ事である。大三に移行するときは真直を消させるように手の内を手の内の角度まで持つていく。その時中指と拇指で金指を作る。この時三指で側木を扶む心持ちで抑える。

弓手はつまみ棒のように骨で受ける。棒の先に手の内がある。この時手首・脈所は控えることなく弓手と矢のなす角度が小さくなるように会に至る。そのまま会に至るが金指は拇指に負荷がかかるので、手の方に力を逃がす気持ちで拇指を働かせると中指と拇指は会に至る過程で縮まり、会では手の内は微動だにすることなくしっかりと決まる。この時角見の線が、手に向かつて延びている。そのまま角見で押し切れれば矢は自然と的に着く。離れのとときは拇指角見で矢を文的に送り出す心が大切である。文章のみの解説でわかりにくいところが多々あると思うが、手の内一生と言われる如く直ちに完成とはいかないが、それぞれに工夫を重ね努力していただきたい。

今任期を回顧して

理事長 木村嘉久雄

平成14・15年度は、大きな行事を抱え目まぐるしく、想い出多い2年でありました。この時期に、理事長をつとめさせていただいたことに幸せを感じております。そして、協力いただいた関係者に対し、衷心より感謝申し上げます。14年度の主たることは、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)弓道競技でありました。この運営は、高体連弓道専門部が主力となつて担当し、見事な実績を残すことができました。これに加えて、副会長の尽力により、道場控室の増設や看的用電光標示盤の設置も施され、ハードとソフトが調和された大会でありました。

ほかに、範士八段矢吹三郎先生のご逝去という悲しい出来事もありました。茨城県弓道界の重鎮でありました。茨城県の逝去は、誠に無情の極みに想うものであります。15年度は、関東北部地区指導者講習会、続いて、第8回国民体育大会関東ブロック大会(二国体)弓道競技、少年弓道練成大会(武道館協議会主催)、外部コーチ招聘講習会(県体育協会主催)など、県弓道の通常行事の他に処理せねばならなかった多忙なことであります。

ご協力いただいた関係各位に感謝いたす次第であります。

更に、特筆すべきことは、静岡弓道競技(浜松市)において、天皇杯3位、皇后杯4位、なかでも少年女子チーム(石岡商高)が近似的種目で優勝し、その射射の内容は「射絶命の具現化に努めた素晴らしいものであり、大会関係者の評判であったと聞いております。将来ある少年チームがここにたつて、将来は、本県弓道界の大きな財産であります。

茨城県弓道連盟が抱えている重要課題の一つに高校弓道OBの受け入れ方がありますが、高校在学中に培った弓道修練を卒業後も継続できるように環境づくりをし、受けなければならぬのであります。

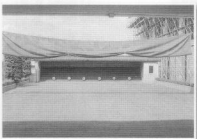
今、全日本弓道連盟は、弓道競技の国際化を提唱されており、その方向へ進むことでしよう。その為にも弓道選手層の若年化対策は怠れるものではなく、会長を先頭に、高体連とのコミュニケーションを密にし、高体連弓道から社会人弓道への導入路を確立していかなくてはなりません。皆さんへの英知をお寄せ下さるよう期待してやみません。

茨城県弓道界は、中野杯記念弓道大会で顕彰させていただいてい

るよう、(故)中野慶吉先生のご指導があつて礎が固まり、それを継いで、今日の発展へと導いてこられたのが現会長の関宗長先生であります。

関先生には、平成16年1月12日(武道館開きの日)永年になつた武道振興、普及の功績を顕彰され、日本武道協議会(会長、堀川正十郎)より武道功労章受賞の榮譽に浴されました。会員の一人として、誇りに思うものであります。

来る新年度は、国際化が弾んで「競技力の向上」に拍車がかかるであろうと思いますが、弓道修練の本質を考え、的中主義が主流にならないよう心し、弓道の良さを満喫できる連盟へと発展されることを祈つてやみません。



東海村総合体育館弓道場

名簿管理を通して思うこと

副理事長 北島 瑞男

中・高体連の協力を頂いて中高生の弓道部員名簿を作成する仕事を受けています。

名簿の有効な活用が無いまま仕事を進めているので、少々むなしさを感じたりもしています。

平成十五年度の登録部員数は、中学生五〇七名、高校生二〇〇一名でした。本連盟高校生の二〇〇名では、多いのか、少ないのかこの数だけでは判断し難いと思いますので、煩雑になりますが数値を並べてみます。

平成十五年度の資料を見ると、県の高等学校体育連盟高体連に加盟登録している競技種目は三五種目あり、総登録者数は一八三五人になっています。高等学校全日中で運動をしている生徒の数は、この人数と、高野連と呼ばれる、硬式野球をやっている生徒の合計になりました。硬式野球を別にすると、高体連加盟三五種目の中で、弓道人口は何番目だと思いますか？

多い順から言いますと、サッカー、バスケットボール、テニス、バレーボール、陸上、ソフトテニス、バドミントンに次いで八番目なのです。上位二種目は四千、三千名台の登録数ですが、あとは二千名台で大きな差がありません。

つまり、硬式野球を入れても高校生の行っている活動としてジャヤ一〇〇の部員数をもつメジャーな種目ということになるのです。

弓道以外の種目は、オリンピックや各種大会等で、しばしば耳にする機会が多いので、知名度という点からすると弓道は、格段に低いと感じています。しかも私だけではないと思います。しかしよく考えてみると、他のスポーツの殆どは、知っている人目だけがやらなくても、ニュース、観戦などの機会を知っているのに対して、弓道は、知っている人の殆どが体験者という特色があるように思います。

中高時代にやったスポーツをそのまま社会人となっても続けている人の割合は、いずれの種目もかなり低くなり、多くは見えて楽しんで方へ移行しているのではないのでしょうか。

社会人の身分でスポーツを親しんでいる人は、ゴルフのように社会人になつてから始めたのを加えてもそんなに多くはないと思います。今、弓連(全、茨)ともでは、弓道人口の拡大、特に底辺の拡大を課題としていますが、高校生のメジャースポーツである今の状態を維持発展するよう働きかけていくことが必ず将来の発展に結びつくことを確信しています。

大のために、経験者数の蓄積は大切な要素であり、その人口の増加は弓道の何たるかを知って理解を示してくれる人の数の増加を意味することになります。

高校生の二%に相当する部員数は、将来の本県人口の二%、約六万人、この人たちの配偶者・親類縁者・子どもなどを含めれば、倍以上の理解者が出ると考えてよいのではないかと、その意味で弓道の将来は明るいといえます。

ただ、より発展するためには、中高生の活動に関して、弓道の良い点を理解してもらっておくことは大切なことだと思います。将来本人が継続して出来なくても好印象をもち続けていてもらえば、新た始める人への後の言葉にも表れますように、励ましの原動力にもなります。

弓連はその意味でも、中高生の活動に当たるとの緊密な連携、及びできる限りの協力が欠かせないと思っています。



平成15年度指導部講習会を終えて

指導部長 庄司 幸夫

会員の皆様は、お元気で日々のご古にご精進のことお慶び申し上げます。

平成15年度は、高体連国体関東ブロック大会、関東大会、関東大会等が上半期に集中し、講習会の開催日程も大幅に削減された中ででの運営となりました。

指導部講習会としては、年度始めに運営方針(各段位に応じた体配・射技のレベルアップを図り、県内外の大会・審査に通用する重点を養成する)を掲げ、各回の重点指導項目等について各支部長を通じて全会員にお知らせし、より有効な講習会受講となるよう計画、実行してまいりました。各講習会には数多くの参加を頂き、大過無く運営できました。また、部員はもとより、ご指導にあたっていただきました先生方や、受講者各位のご協力の賜物とお礼申し上げます。各講習会の内容と参加状況は以下の通りです。

③称号者講習会
年間目標：全弓連の射礼の修得を中心に、相互研修を基本とし、知識教養を高めた射術のレベルアップを図る。
開催日：05/05/31 08/31の2回
参加者数：120名

④他に支部指導者講習会(伝運)07/21 41名、教職員講習会08/24 23名を実施しました。以上のとおり延べ8回442名の参加を頂きました。

尚、昨年度は上位者の活躍が目覚ましく、連合/中央の審査においては、教士4名、紳士6名、七段1名、六段4名、計15名もの多くの方々が昇段/昇格されました。また、競技関係においては団体における天皇杯3位を獲得するなど久方ぶりの快挙でした。

本年度も昨年以上に実りある年であることを祈念致しますとともに、指導部主催の講習会がその一助となれますよう、講習課題の設定等に工夫をして行く所存です。本年度の講習課題につきましては別途各支部長を通じてご連絡申し上げますので、より多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

①三段以下講習会
年間目標：射法八節の各節の関わりと運行方法を習得する。
開催日：05/09/18の2回
参加者数：178名

②四五段講習会
年間目標：体配にそった射法・射

平成15年度 講習会

開催日	種別	参加者	主任講師	講師 (敬称略)
5/5	三段以下者	89	木村 喜久雄	瀧野 昇 堀 史 駒場 孝司 庄司 幸夫
5/24	称号者	44	関根 村夫	久保田 清 赤津 徳 木村 喜久雄 海老根 芳江
5/31	四・五段者	52	天 冨子	明間 勲 高橋 輝子 塚田 哲也
7/21	支部指導者	41	安藤 延典	海老根 芳江 白石 直之
8/24	学校指導者	23	柴田 猛	高橋 平吉 清水 匡 川瀬 政人 高橋 輝子
8/31	四・五段以下者	68	張替 謙一	関口 宇一郎 達 康美 綱川 久子 中井川 一郎
9/13	三段以下者	89	介川 達	柴田 猛 関根 村夫 久保田 清
10/13	称号者	36	柴田 猛	
		442		

平成15年度競技を振り返って

競技部長 須田 勝

会員の皆様には、健康で稽古に励んで居られることとお慶び申し上げます。

平成15年度の事業も、お陰様でとどきお終りなりました。県弓連役員の方をはじめ担当された各地区の皆様、会員の皆さん、それに競技部の部員全員が心を合わせて、ご協力を戴いた賜であり心からお礼申し上げます。

平成15年度は、大会をスムーズに運営することを最重点に置き、特に射終わった後、すぐ競技射に入れる様、白板を使い皆で心をくだしながら運営してまいりました。また、担当地区のお手伝いをして戴き皆さんには、是非弓を引きながら担当の仕事をして戴くことを願い、組み合わせに注意をして進めてまいりました。

先日、競技部の反省会を開きまして、色々な意見が出たなかで、遠的競技に参加者が少ないことがあげられました。

日弓連でも、遠的競技を奨めています。遠的は、離れたよい勉強になります。遠くへ飛ばすことで大きく離れること等、大いに勉強になりますので、進んで参加して下さい。ただ遠的の練習場所が少ない事が原因の一つと思ひ、県武道館で練習ができるかどうか県弓連に相談してみたいと考えています。

最後になりましたが、一年を過ごして大会を盛り上げて下さった皆様、心から感謝申し上げます。なお、来年度の大会申し込み用紙は、3月の代議員会でお渡しいたします。

県外派遣について

一、関東地区女子講習会

(H15 6/20、22 東京)

海老根 芳江、綱川 久子

萩沼 信子、広水 千加代

柴原 利子

二、関東北地区指導者講習会

(H15 6/21、22)

安藤 延典、川瀬 政人

高橋 康美、高橋 輝子

塚田 哲也

三、中央研修会

(H15 10/3、5 東京)

市毛 道子、張替 謙一

久保田 清

四、指導力・競技力指導者講習会

(H16 2/28、29 茨城)

明間 勲、安藤 延典

関 正美

五、地連幹部指導者講習会

(H16 3/6、7 甲府)

天 冨子、赤津 徳

昇段昇格者

練士

(H15 8/11 甲府) 高橋 義之
(H15 9/14 神奈川) 赤嶺 幸子

(H15 9/14 神奈川) 尾崎 芳子
(H15 10/4 米沢) 唐沢 叔莊
(H15 11/23 岐阜) 吉澤 久
(H15 12/6 大阪) 高澤 靖
(H15 12/21 東京) 根本 鈴子

教士

(H15 5/5 京都) 塚田 哲也
(H15 7/4 仙台) 中井川 一郎
(H15 12/21 東京) 助川 末廣
(H15 12/21 東京) 丸山 真一

六段

(H15 8/11 甲府) 円城寺 賢一
(H15 10/5 米沢) 萩谷 好浩
(H15 10/5 米沢) 萩野 谷綾子
(H15 11/2 東京) 小松 正幸

七段

(H15 5/16 京都) 赤津 徳

県外大会入賞

一、第41回関東教職員大会

男子団体2位 茨城A
個人3位 根本

女子団体1位 茨城A
個人1位 齋藤

個人2位 柴 大塚

一、全国年輪ビッグ
(H15 10/19、21 徳島)

優秀賞 堀江・田口・会澤
介川・福田・齋藤

沼野・桜井

一、第58回国民体育大会
(H15 10/26、29 浜松)

天皇杯3位
皇后杯4位

少年女子近畿優勝 (石岡商高)

一、全国青年大会
(H15 11/9 東京)

個人優勝 飯岡 宏子
東茨城郡

褒状授与者

◎ 武道功労章受賞

(H16 1/13 東京) 関 宗長

◎ 茨城県体育協会会長・教育長賞
(H16 2/7) 茨城県弓道連盟

◎ 茨城県教育長賞
(H16 2/19) 飯岡 宏子



射徳館弓道場

平成15年度 大会一覧表

大会名	月日	表彰	一位	二位	三位	最高得点	優秀賞
全日本勤労者選手権 大会県予選会	4/13	団体 個人	日製日立A 寺本 貞光	三菱化学A	原 研		
春季大会	4/20	団体	千代田 B	高 萩 B	八 郷		
		個人男子	池田 秀臣	緑川 慎二	小澤 正史		
		個人女子	越川 春江	祖父江恵美	根本 孝子		
		個人称号受有者	萩野谷綾子	石川 崇則	小沼 勝則		
		団体優秀賞	八 郷	千代田 B	神 栖 A		
		個人優秀第一射場 個人優秀第二射場	尾崎 芳子 池田 秀臣	祖父江恵美 明間 三恵	大波 正		
県選手権大会 (有段者の部)	5/25	個人三段以下	関口 信夫	祖父江恵美	石毛 和之		
		個人優秀四・五段 初段以下	菊池 俊和 小松崎 涉	池田 秀臣	染谷 学		
		二段	松田 知子				
		三段	橘 登志子				
		四段	染谷 学				
		四段 五段	西野 文子 池田 秀臣				
県民総合体育大会	6/15	成年男子三段以下	鈴木 章記	関口 信夫	柴田 祐一		
		成年男子四段以上	池田 秀臣	田口 敏明	會澤 久		
		成年女子三段以下	松村美由紀	高野 智裕	島 満栄		
		成年女子四段以下	君島 洋子	飯田 悦子	西野 文子		
		称号受有者の部	石井 誠	小沼 勝則	石井 和子		
県選手権大会(称号受有者の部)	6/29	称号受有者の部	石井 誠	助川 未廣	塚田 哲也	川瀬 政人	
遠の大会	7/13	男子の部	菊池 俊和	石井 誠	平戸 信行		
		女子の部	石井 和子	高野 知裕	浜野 悦子		
青年大会	9/7	団体	東茨城郡	下館市	那珂郡		
中野杯記念大会	9/15	個人一般男子	緑川 慎二	菊池 俊和	美濃 智明		
		個人一般女子	野田真喜子	松田 知子	西野 文子		
		個人称号受有者	久保田 清	郡司 武満	石井 和子		
段位別大会	10/19	二段以下の部	鈴木 慎也	遠藤 陽一	関川 篤	関川 篤	
		三段の部	美濃 智明	明村 範彦	石毛 和之	黒澤 智子	
		四段の部	飯岡 宏了	染谷 学	後藤 裕一	後藤 裕一	
		五段の部	山崎 芳美	鶴見 高雄	桜井 聡	塩崎 裕治	
		称号受有者	石井 和子	石井 誠	小沼 勝則		
武進フェスティバル	11/19	一般の部	美濃 智明	菊池 俊和	照井 ひさ		
		称号受有者	平戸 信行	柴原一利子	村山 久行		
支部対抗	11/23	団体戦	藤代 B	藤代 A	日立電線 ひたちなか市部		
新年射会	1/11	三段以下	正田喜八郎				
		四・五段	堀江 文彦				
		称号受有者	萩野谷綾子				
		団体戦優勝 団体戦準優勝	赤 組 白 組				

平成十五年度審査報告

審査部長 明間 勲

平成十五年度の審査も、審査委員、審査役員の多くの方々のご協力により、無事終了する事ができました。御礼申し上げます。

十五年度は、多くの受審者があり総数二四〇名でした。特に、高生の無指定の受審者が多かったのですが、残念ながら一般の無指定の受審者が少なく今後の課題だと考えられます。

生涯スポーツとして各道場・支部で、一般人の底辺の拡大を図るべく指導者が努力していく必要があるのではないのでしょうか。

お願いとして

審査申し込書について、各学校、一般共に決められた申し込書が使われていません。徹底されるようお願いいたします。

一、中・高生は黄色の請求書

一、一般は全日本弓道連盟の級位から五段までは白色の申し込書

平成15年度 審査部事業報告

審査会名	審査員数	役員数	2級合格	1級合格	初段審査	初段合格	二段審査	二段合格	三段審査	三段合格	四段審査	四段合格	総審査数	総合格数
5/11 中高	14	20	15	81	285	165	103	91	4	0			392	256
6/1 一般	7	12	1	1	36	34	31	27	54	22	28	6	149	89
7/6 中高	13	20	38	66	270	128	60	50	12	3			342	181
9/14 一般	7	12	17	29	139	70	18	8	1	0			158	78
9/21 中高	7	12	1	3	12	8	10	9	27	10	19	4	68	31
10/5 連合	8	13											104	19
11/24 一般	7	12		1	20	19	13	13	53	20	37	18	123	70
12/7 中高	14	20	49	370	468	50							468	50
12/14 中高	13	20			132	132	181	166	23	8			336	306
合計	90	141	121	551	1,362	606	416	364	174	63	84	28	2,140	1,080

矢吹三郎範士を偲んで

ひたちなか市湊支部長 海者 櫻芳江

平成14年7月5日県連名誉会長であった矢吹三郎範士八段が83歳で逝去され、一周忌にあたる平成15年6月28日に、ひたちなか市湊支部と晩星会が中心となり県武道館弓道場で追悼射会を開催いたしました。

会場の上空に道影を掲げ、そのまわりに花や大好きだったお酒も供えました。また、球には特製の陰的を掛けました。

参加者全員で黙祷し、矢吹先生とのご縁を偲びながら厳そかに献射いたしました。

矢吹先生と私の出会いは、高校生の時でした。先生は大変厳しい反面やさしさもありました。印象に残る言葉として、今も心に残っているのは「練習は本番のように、本番は練習時のように」という言葉です。

思い起こせば、寒い冬、隣の広い空き倉庫を借りて、探電球の下、ストロブを持ち込み、きびしい条件のもとで指導いただいたのが、私の弓道人生の始まりでした。

先生は、全日本弓道連盟の中央審査会、講習会やアメリカアトランタへの弓道普及活動等々、弓道一筋の生涯を送られ幸せな人生であられたと思います。

更に先生は、県連の理事長、副会長を務め、平成9年からは名誉会長を務められました。このように長年にわたり、県弓連と本県体育の振興に貢献された功績が認められ、勲6等単光旭日章を受賞されました。

ここに先生の生前のご指導に心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



県内地方大会

土浦桜まつり大会

とき H15・4/5・6

ところ 土浦市武道館

参加者 中学生 85名

高校生 257名

一般 117名

表彰

中学生の部

一位 前城 綾(阿見中)

二位 益子紗佐里(竹来中)

三位 上田 春恵(朝日中)

高校生の部(男子)

一位 辻 尚宏(土浦一高)

二位 瀬谷健太郎(土浦日大高)

三位 飯沼 拓也(守谷高)

団体優勝 佐和高B

高校生の部(女子)

一位 桑原 悠里(石岡商高)

二位 鬼澤亜有美(水戸二高)

三位 西野 美涼(佐和高)

団体優勝 佐和高

一般の部

一位 柴田 猛(教育庁)

二位 福永 弘藤(代町)

三位 石井 和子

(ひたちなか市) 湊

第32回村松山弓道大会

とき H15・4/6

ところ 東海村村弓道場

参加者 小学生 22名

中学生 141名

高校生 314名

一般 85名

表彰

小学生の部

一位 中嶋 涉(村松)

二位 齋藤百合香(中丸)

三位 井之上瑞己(村松)

射詰優勝 森實 裕人(日立市)

総合優勝 友部 那美(石岡商高)

二位 富田 由美(石岡商高)

三位 尾吹 将大(石岡一高)

鹿島神宮大会

とき H15・4/29

ところ 鹿島神宮弓道場

参加者 250名

表彰

高校生の部

一位 玉造工高

個人射詰

菅谷 和宏(石岡商高)

個人射込

一位 小松崎佑香(土浦工高)

二位 尾吹 将大(石岡一高)

三位 瑛 典哲(錦田一高)

一般の部

波崎町

個人射詰

一位 菊池 俊和(藤友会)

二位 助川 忠男(新治村)

三位 大谷 孝(夷隅)

特別賞 飯島 とよ(取手市)

露ヶ浦町鹿島神社奉納射会

とき H15・5/5

ところ 平三坊

参加者 47名

表彰

一般の部

射詰

一位 中座 由行(土浦支部)

競射

一位 山口 宏(露ヶ浦町)

二位 小松 正幸(露ヶ浦町)

三位 柳生 高人(阿見町)

近の賞 林 厚子(新治村)

第11回麻生町長杯弓道大会

とき H15・5/11

ところ 町民運動広場弓道場

参加者 110名

表彰

高校生の部

射詰

一位 菅谷 和宏(石岡商高)

射込

一位 藤澤ちなみ(石岡二高)

二位 菅谷 和宏(石岡商高)

三位 友部 那美(石岡商高)

一般の部

石岡商高

射詰

一位 片岡 信雅(くば市)

射込

一位 杉山 義光(空白百里)

二位 和久ひろみ(圖書情報大)

三位 高野 敬光(玉造町)

団体 一位 玉造友部

神栖町武道館創立15周年記念大会

兼第24回神栖町大会

とき H15・5/18

ところ 神栖町武道館弓道場

参加者 高校生 47名

一般 70名

表彰

高校生の部

射詰

一位 中島亜紗美(石岡一高)

二位 小松崎佑香(土浦工高)

射込

一位 荒井 慶彦(石岡一高)

二位 中島亜紗美(石岡一高)

三位 深口 明子(神栖高)

団体 一位 鏡子西高A

一般の部

射詰

一位 山下 清東(庄町)

二位 山城 勝(平久市)

射込

一位 佐藤 孝至(玉造町)

二位 大谷 孝(東庄町)

三位 川堀 富男(鹿島市)

団体 一位 三菱化学

第41回奥久懸弓道大会

とき H15・10/25(土)

ところ 県立大子二高弓道場

参加者 75名

表彰

高校生の部

一位 石井 妙幸(大子二高)

二位 益子 和美(大子二高)

三位 椎名美和子(大子二高)

一般の部

一位 大高 光基(大子)

二位 荻谷 好浩

三位 根本 勝哉(白製日立)

四位 清水 博

五位 佐川 順博(大子)

(ひたちなか市) 勝田

余興の部

銀的 森實 裕人(日立)

金的 池田 京子(栃木那須)

鉄的 堀江 栄(大子)

りんご的 富田 紀子(大子)

神栖町弓道秋季大会

とき H15・11/15

ところ 神栖町弓道場

参加者 14名

表彰

射込一位 野口 昭(神栖町)

射詰一位 唐沢 叔莊(神栖町)

総合一位 祖父江 恵美(神栖町)

第23回県西弓道大会

とき H16・1/4

ところ 五稜館弓道場

参加者 高校生 196名
一般 50名

表彰

高校生の部

団体一位 下館一高E

二位 下妻一高E

三位 守谷高A

個人(男子)

一位 神谷 博信(守谷高)

二位 松崎 修(下妻一高)

三位 関 俊春(境高)

個人(女子)

一位 黒須 愛理(古賀二高)

二位 飛木亜歩美(下館一高)

三位 下妻一高E

団体

下妻一高E

個人

男子 上野 雄也(下妻一高)

女子 高島 美智(結城一高)

一般の部

有段者の部

一位 吉田 盾(三和町)

二位 鈴木正太郎(下館市)

三位 稲見 真人(下館市)

称号者の部

一位 小武内弘子(神橋町)

二位 小沼 勝則(彼崎町)

三位 中嶋 鉄郎(境町)

技能賞

有段者 吉田 盾(三和町)
称号者 中嶋 鉄郎(境町)

高校春季大会
兼 関東大会県予選会

とき H15・5/9~10

ところ 県武道館

参加者 女子52校63チーム
男子48校71チーム

表彰

女子団体

一位 石岡商高B

二位 石岡二高B

三位 下妻一高A

男子団体

一位 石岡商高A

二位 霞ヶ浦高B

三位 守谷高A

女子個人

一位 渡辺 智美(下妻一高)

二位 西野 弥生(佐和商)

三位 藤田加奈子(石岡二高)

男子個人

一位 菅谷 和安(石岡商高)

二位 関 源太(桜ノ牧高)

三位 湊 健太郎(水戸一高)

全国高校総体県予選
兼 県民総体

とき H15・6/12~13

ところ 県武道館

参加者 女子71校65チーム
男子63校55チーム

表彰

女子団体

一位 石岡商高

二位 土浦三高

三位 太田二高

男子団体

一位 水戸一高

二位 石岡商高

三位 下妻一高

女子個人

一位 豊田 桃子(石岡商高)

二位 友部 那美(石岡商高)

三位 榎山 祥子(水戸二高)

男子個人

一位 中山 秀明(石岡商高)

二位 遠田 弘志(八千代高)

三位 稲川健太郎(下館二高)

県高校個人選手権大会

とき H15・8/20・22・23

ところ 県武道館

参加者 女子82名
男子572名

女子総合

一位 米栖 涼子(石岡二高)

二位 樋口 春奈(石岡商高)

三位 牧 香苗(電ヶ崎二高)

男子総合

一位 斉藤 勇祐(電ヶ崎一高)

二位 菊池 哲也(磯原高)

三位 村上 貴浩(水戸一高)

女子一年の部

一位 路川恵利加(茨城高)

二位 船木 未織(土浦三高)

三位 原井 沙織(東洋大手女高)

男子一年の部

一位 津島 忠広(清真学園高)

二位 梶 暁年(水城高)

中野優勝旗記念大会

とき H15・9/21

ところ 県武道館

参加者 女子68校67チーム
男子69校56チーム

表彰

女子団体

一位 藤代高

二位 電ヶ崎一高

三位 土浦三高

男子団体

一位 水戸一高

二位 境高

三位 真壁高

女子個人

一位 杉澤 南美(日立二高)

二位 矢口いずみ(牛久高)

三位 岡田 尚美(下館二高)

男子個人

一位 箭原 剛(佐和商)

二位 菊池 哲也(磯原高)

三位 人見 孔太(水城高)

高校弓道新人大会

とき H15・11/21~22

ところ 県武道館

参加者 女子45校50チーム
男子45校50チーム

表彰

女子団体

一位 石岡商高B

二位 土浦三高

三位 水海道一高

男子団体

一位 電ヶ崎一高A

二位 下妻一高A

三位 水戸一高

三位 土浦三高

女子個人

一位 竹村 裕子(石岡商高)

二位 路川恵利加(茨城高)

三位 野口 麻里(土浦三高)

男子個人

一位 村上 貴浩(水戸一高)

二位 倉持 匠(つくば土高)

三位 上野 雄也(下妻二高)

中学校総合体育大会

とき H15・7/28

ところ 茨城県武道館

表彰

男子個人

一位 明光中

二位 内原中

三位 朝日中

四位 水戸二中

五位 水戸二中

団体女子

一位 稲田中

二位 城ノ内中

三位 水戸二中

四位 阿見中

五位 東海南中

個人男子

一位 高橋 義史(城ノ内中)

二位 寛田 聡(朝日中)

三位 横山 祐紀(東海南中)

四位 桑名(一也)内原中
五位 砂田 高宏土浦一中
個人女子
一位 高田 春葉城ノ内中
二位 北高 理美(稲田中)
三位 青木 幸乃(稲田中)
四位 八重柏由佳(阿見中)
五位 鬼形 鈴音土浦一中

第27回中野林優勝旗争奪大会
(中学生の部)

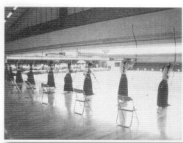
とき H15・8/4
ところ 茨城県武道館

表彰
団体男子
一位 城ノ内中
二位 朝日中
三位 水戸二中
四位 内原中
一位 東海南中
二位 城ノ内中
三位 内原中
三位 阿見中
個人男子
一位 高橋 義史(城ノ内中)
二位 横山 祐紀(東海南中)
三位 沼尻 広明(愛宕中)
個人女子
一位 上杉くるみ(内原中)
二位 大吉 明奈(稲田中)
三位 勝部 清弥(阿見中)

中学校新人体育大会
とき H15・11/7
ところ 茨城県武道館

表彰
団体男子
一位 竹来中
二位 東海中
三位 愛宕中
団体女子
一位 清真学園中
二位 水戸二中
三位 城ノ内中

個人男子
一位 石川 泰弘(竹来中)
二位 大崎 健太(竹来中)
三位 沼尻 広明(愛宕中)
四位 酒井 千明(土浦一中)
五位 雨貝 拓巳(竹来中)
個人女子
一位 原 果味(清真学園中)
二位 大内野乃花(東海南中)
三位 瀨部 恵理(内原中)
四位 植田 春恵(朝日中)
五位 塚越茂菜美(水戸二中)



大会風景

茨弓連教練士会の紹介

理事長 瀧野 昇

一、はじめに
平成一四年度、会長の天冨子先生の、硬い辞意表明により、教練士会は規約により、平成一五年度明間会長を中心とした新役員が左記の通り選出されました。

現在、明間会長の元にて役員一同会運営に鋭意努力しているところで、幸いその意を理解され、教練士の方々(会員数五四四名)の協力をいただきながら、一年間各行事を楽しく終了した事を報告いたします。

さて、教練士会の当面の方向は、専任講師を決め、二貫指導により指導効果が目に見えることであります。

その効果が実感できるとき、初めて講習会への参加意義が理解し納得できるものと考えています。
平成一六年度は、柴田猛先生、久保田清先生を中心に研修会を行う計画です。また、教練士会顧問の関宗長会長、田原トシ先生、関根村夫先生、茨城県弓道連盟相談役の横山亮次先生に、一時間程度の座学をお願いし、全日本弓道連盟の動向、茨城県弓道連盟の歩み、人生と弓道、弓道人の心構え等のテーマでお話を伺い、弓道に対する教養を高めた、いその実現に向け明間会長が奔走中です。

教練士会は県内で最高の弓道人の集団であり、後輩の多くの人達が、皆教練士会に仲間入りすることに誇りを持ち、期待して入会して下さい。
多くの人会者と多くの卒業生(範士)が出ることを心から願うものです。

二、役員紹介(二一五一六年度)

会長 明間 勲
副会長 安藤 延典、堀江 栄
理事長 瀧野 昇
理事 長 山田伊之吉
会計長 山田伊之吉
監事 市毛 道子

理事紹介

瀧野 昇(日立・東北地区)・網川(水戸地区)・萩野 信子(勝田地区)・吉田 智(岡地区)・川瀬(政人(鹿行地区)・福田 長作(土浦地区)・駒場 孝司(県南地区)・庄司 幸夫(県西地区)・曲山伊之吉(会長推薦)・市毛 道子(会長推薦)・天 冨子(会長推薦)・高橋 平吉(会長推薦)

顧問紹介

山口 省吾(範士)・田原 トシ(範士)・関 宗長(範士)・柴田 猛(範士)・関根 村夫(範士)

平成15年度 行事報告

開催日	内容	場所	備考
15年 7月20日	研修会	土浦武道館	講師 明間先生 21名参加
15年10月25日	研修会	県武道館	講師 岡崎先生 延べ56名参加
16年 1月17日	研修会	県武道館	講師 久保田先生 18名参加
16年 2月21日	研修会兼理事会	県武道館	明間先生中心の一ツの研修 20名参加
16年 3月 6日	射会兼総会	県武道館	

三、一五年度及び一六年度行事

平成16年度 行事予定

開催日	内容	場所	備考
1 16年 7月17日	研修会	県武道館	県内講師予定
2 16年10月31日	研修会	県武道館	県内講師予定
3 17年 1月22日	研修会	県武道館	県内講師予定
4 17年 2月19日	研修会兼理事会	県武道館	県内講師予定
5 17年 3月19日	射会兼総会	県武道館	



研修会風景

四、おわりに

教練士会の開催については、会員個人にその都度連絡をしていますが、県弓連の年間行事計画表を見て参加していただくことも、各自弁当持参となっています。研修会は、皆さんやる気満々でいつも楽しんで終わり、役員一同感謝している次第です。高めていただくため役員が精一杯の努力をしています。今後は若い人達が進んで役員になって、教練士会を充実、発展してくださることを期待しています。

五段会について

会長 大貫富士夫

平成16年2月11日、第32回五段会中野林亭奪杯射会が、石岡静心館弓道場において和氣薫々の中にも真剣に行射が行われ、会員相互の研鑽が図られました。

五段会は、現在会員66名を数え年一回の右記大会の他3回の講習会を開催することに、五段としてを体配、射術の向上に寄すことを目的として運営しています。

発足は、昭和47年当時の国体選手(監督)吉田金太郎、選手 矢吹三郎、菊池景武、小祝が中野慶吉先生のところに御礼と報告に伺った時の会話から始まったとの事です。

監督以下がそれに答えて茨城県の弓道レベルは全国的に中の下、技術・精神・腕技力は未熟、厳しい修練が必要と思います。中野先生はしばらく無言のうち「よしやる気のある者何人いるか知らんが、やる気のある者を集めて俺の所へ来なさい、月一回でよい、それそこからスタートしたとの事です。そこら立ち会ったのは、当時茨城県弓道連盟会長鈴木誠吉先生と中野先生の道場「福田山誠館」に稽古に来ていた石井孝平先生等だそうです。

その後、鈴木会長は前茨城県弓

道連盟会長岡崎儀史先生に連絡し、藤原藤吉・平塚治男・矢吹三郎・元木豊・山口晋吾・石井孝平、梅原良助、小谷野保夫・菊池景武、磯静波、河村昌之先生等のメンバーでスタートし、名称は「福田研究会」となりました。

研究会の申し合わせで現行段位はすべて白紙とし同格会長は居らず中野先生を師範に推戴し、鈴木先生、岡崎先生は顧問格で研究会に参加し、昇真は手介当で実施し、最後まで踏襲したとの事です。

世話人は3名で、初代は梅原先生、石井先生は計は矢吹先生が実施されました。当時の練士は藤塚、平塚、元木、石井の各先生で矢吹先生は五段、吉田金太郎先生は千葉県に転動のため入会はしなかったそうです。

こうした「福田研究会」は、研修内容が充実し、毎回の中央審査にメンバーの中から昇段・昇格者を輩出するとういう実績を残し、県内の弓友の注目を受けたのです。

この時期(昭和47年、茨城国体を2年後に控え、その準備にメンバーの大半が役員として活動し多忙となり、一次解散も検討され解散寸前まででしたが、こゝまで充実した研究会を解散するに忍びず、地元の梅原良助、磯静波、小谷野保夫の各先生に継続を期待しつつ後を任せ、更なる練成、発展を託

し、古資格の称号者は退会し、国体準備に専念し活躍されました。

その後、小谷野先生を中心に五段会と名称を改め、今日に継続されています。右記五段会中野林亭は、当時小谷野保夫先生が中野慶吉先生に依頼し、先生から奇蹟があり現在に至っています。

このような経緯により発足し、幾多の会員、役員の皆様のご協力で運営され、今日に至っています。これからも、より一層の体配・射術の向上に専任講師の指導のもと努力し、会員相互の研鑽の場になりたいと考えています。

五段会役員

会長 大貫富士夫

副会長 長島 利之(会計担当)

顧問 中山 瑞穂(事務担当)

顧問 須田 勝

顧問 須田 昇

顧問 森 昭夫

地区委員 内藤 澄子(天子)

県立 山口 敏明(日立)

水戸 萩谷 好清(ひたちなか市)

石岡 中山三子(夫石岡)

土浦 山野 恵通(麻生)

鹿沼 小松 正幸(鹿ヶ浦)

県南 福水 弘竜(竜ヶ崎)

県西 該当者なし

会計監査 石岡 中山三子(夫石岡)

鹿行 山野 恵通(麻生)

休めば錆びる

― 一三五回を重ねた明正会 ―

理事長 堀江 栄

昭和五十五年六月、渡部順四郎、市毛俊明の各氏が発起人となり、全日本弓道連盟会長中野重吉先生、茨城県弓道連盟会長岡宗長先生、英模を受け、二十六名の「明治会」が誕生した。

中野・岡両先生を顧問に迎え、須田氏が会長として、礼記射義、明治会射義を吟じ、十上射を全て座射で行い残りの時間は射技研修に終日頑張った。これは現在も実行中。

明治会射技

「至誠一筋、礼節を旨とし射風堂々として、一糸乱さず場内静かに満ちて、弦音響き心境我無く、射品に徹す」

中野先生の射行に励まされ、会員も「休めば錆びる」を合い言葉に研鑽に努めてきた。

昭和五十九年度は、茨弓界の大正生まれは一三名にもなり、会の構成も時の流れに従い変化し、昭和生まれも加入させ、第二代會長に山口晋吾氏八段を迎えた。

平成元年に明治会を改めて「明正会」とした。平成八年山口先生は名誉會長に、第三代會長として出原トシ範氏八段に交代した。かつての明治・大正の文字に拘わることなく「明るく、正しい射

を求める、明正」の意味ととらえ、表題の如く「一三五回目的明正会」となった。

この会は偶数月、第一金曜日原則として、年六回集しい中にも興義を求めて張り切っている。現在三十一名御加入を待つています。資格は男子六十五歳以上、女子六十歳以上となっています。

◎問い合わせ、資料請求は天子支部堀江栄まで

住所 〒三一九一三六
久慈郡大町須藤
電話 ○二五七四一五〇〇
FAX ○二五七四一五〇〇
氏名 堀江 栄 まで



明正会

県教職員弓道連盟の活動について

会長 高橋 義之

茨城県教職員弓道連盟は学校弓道の普及発展と会員の資質向上及び相互の親睦を図るため今から約四〇年ほど前に活動を始めた。同じ趣旨から同じ頃に関東教職員弓道連盟が設立され、さらに七年ほど後に全国教職員弓道連盟も組織された。

現在白石直之先生が全国及び関東教職員弓道連盟の会長を兼任しているが、本県の先生が全国教職員弓道連盟会長の役割を担うのは柴田猛先生について二人目である。関東教職員弓道連盟については今まで猪野嘉久先生、北島瑞男先生、白石先生(現職)が会長職を担っている。

本県教職員弓道連盟には現在約六〇名が所属し、春と秋に大会(午後は講習会)を行い、八月の下旬には県弓連との共同主催で二日間の指導者講習会を行っている。

活動の内容に講習会の要素が強いのには、会員の技術研修のため多く部活動指導者としての資質向上に重きを置いているからである。

同じ趣旨から毎年一月に二日間の日程で関東教職員弓道指導者講習会が実施されている。平成一五年度は本県主催となり講師に柴田猛範士八段と齋藤健教士七段(群馬

県)をお迎えし県武道館で行われた。約五〇名が参加し、夜の懇親会では色々な質問に対して柴田先生の丁寧な説明に時間が足りないほどの指導方法も含め、内容の濃い有意義な研修会となった。

県外での活動としては、毎年本県から二五名前後が関東教職員弓道大会と全国教職員弓道大会に参加し立派な成績を残している。関東体協勝一回、男子個人優勝五回、団体優勝一回、女子個人優勝三回(女子部の表彰は第三回からである。全国大会は第三回行われ、男子部の団体優勝一回(猪野嘉久・小野崎紀男・柴田猛)部で優勝三回(昭和四五、四六、四七)、二位一回、三位一回、個人の下上位入賞五回、女子部の部で団体一位一回、二位一回、三位一回、個人部の優勝一回(昭和四八)年天澤士、平成七年高野順子二位以下上位入賞六回である。

県外大会での活躍は嬉しいことであるが、前述のように本来の趣旨は学校弓道の普及発展であるから、より多くの先生方に、特に弓道が初めてで弓道部の顧問となられた先生方には、この教職員弓道連盟に「春と秋には土浦と水戸で大会を行っているが、午後は講習会と

なる。もちろん体配や実技研修が中心となるが参加者の経験や必要に応じた内容となる。部活動指導者の情報交換とともに具体的な指導方法に教えた場ともなっている。互いに教え合ったり、疑問や質問をぶつけることも多い。自己の技術向上だけでなく経験者から弓道の基本や指導の仕方について学べるので、弓は初めてで顧問になって困っている先生や弓道に関心のある先生方もぜひ参加してほしい。

何よりも程々の人数で温かく和やかな雰囲気の中で密度の濃い研修ができるのがよい。OBの参加者も多い。私自身も二年ほど前に弓道部の顧問となっており、一般の方を含め多くの方のお世話になっているが、その中で教職員弓道連盟の先生方には部活動の指導や運営にだけ感謝して、その意味でもより多くの先生方に参加していただき学校弓道の普及と発展に寄与していただきたいと願っています。

最後に、平成一六年度の関東教職員弓道大会は本県主催で七月四日(日)に県武道館で行われる前日は準備・公開練習。茨弓連の方々は準備も多くの方々の協力をいただかねばなりません。ご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。なお先生方にはこれを機に弓道への関心を深め、より多くの参加とご協力をお願いする次第です。

最後に、平成一六年度の関東教職員弓道大会は本県主催で七月四日(日)に県武道館で行われる前日は準備・公開練習。茨弓連の方々は準備も多くの方々の協力をいただかねばなりません。ご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。なお先生方にはこれを機に弓道への関心を深め、より多くの参加とご協力をお願いする次第です。

女子部とは

会長 天 冨子

女子部の概略

「いばらきの弓道と題して、平成十二年四月に五十年記念誌が発行され、その中に「女子部」として、昭和五十一年から平成十二年までの経過を簡単にのせました。平成十六年二月八日の新春大会に会員からの要望として、もう少し女子部のPRをしてほしいと言われましたのでこの機会にのべさせていただきます。

とくに男子の方々には「なぜ女子部があるのか」と言われる方があるので、女子部充足についてのことを述べます。

昭和四十九年の茨城国体の時一般女子が数名でしたので、成年女子の発掘に大変困難がありました。その時、故・中野慶吉先生から「女子部を作り、その層を厚くすように」と田原トシ先生と私にお願いされたので。当時の会長は鈴木敏先生で、相談をして昭和五十一年に形だけの女子十数名で十月に発足したのです。始めは底辺の充実に力を入れ、弓道大会を行いました。

しかし的中率が悪いので、講習会を行い技術の向上を計りました。心ない人の噂話に「女子部」と言っても要さん達の茶会みえだと言われましたが、それがかえって、バネとなり、ひたすら技術の向上のみと、務めているうちに、初段↓

式段も参段も四段も五段段士も六段とそれぞれに着実に進み、会員も次第に増加して今は、百名以上になりました。

女子部の特徴について

◎教本の中の弓道の最高目標「真善美」について心がけ、特に女性特有な行動によって、体配の美しさを発露出来るように、呼吸と動作に注意して行う。

◎神をかげはよいと言うものはなく、手さばきの美しさを考え、心かける。

本年度の目標とするものは

二十八年統一目標の上さらに、精神面の強調について、まず自分に勝つことに心がける。

技術の面で、鏡に映る姿だけでなく体の内部のつかい方たとえば、射法調の中の「弓を射す」を射ること」を体で行う。

横一線とか、押すという手の内、など。

女子部PRとして

一年間の行事は、四月は総会と講習会他、講習会三回、秋に女子大会、一月に新春大会と役員会。

役員は、県内を五地区にわけそれぞれに役員がおりますので、何れが御要望がありましたら御連絡下さい。天直通でもかまいません。

会 長	天 冨子	0296-72-0913
東北地区	海老根芳江	029-263-7368
	藤沼 信子	029-231-0083
中央地区	市毛 遼子	029-241-3348
	塩津多恵子	029-241-3348
関東地区	山口 雅子	029-132-3710
	小武内弘子	0478-83-8087
関西地区	村上 美保	0296-77-1210
	坂入 栄子	0296-26-6868
関東地区	飯田 悦子	0298-21-7909
	丸 けい子	0298-46-0568

まとめ

女子部について、述べましたが、中野先生御生前に「女子部の面倒をみて、向上するよう、頑張ってください」というお言葉を胸に、私の体の続くかぎり、技術の向上を、弓道の真髄を、もともとて行きたいと願っております。



女子部講習会風景

世代交替

友部支部 綱川 久子

今にして思えば、私が昭和六十二年に友部町弓道クラブに入会した頃は、友部支部の全盛時代だったのかも知れない。会員も多し、活気もあり、男性では当たらない射はない位の岩城さんや鈴木さん、柴沼さん等の面々が居り、女子では六十年国体で成年女子総合優勝チームのメンバーの一人である萩原百合子紳士を筆頭に常時十人程の人数が集まっては腕を競っていたのです。

指導の方も行動的で、何にでも参加し県内射会は言うに及ばず、一年一回は他県の弓道場へ泊まりがけで遠征し、女子部に於いても、それ講習会だ、大会だ、はては明治神宮の射会から東日本の大会等々、西も東もわからない人も連れて行って勉強させてくれたものです。

その故ばかりでは無いかも知れませんが、平成四五年頃からは茨城の女子大会では友部チームとして何度か団体優勝をし、二位、三位は毎年の事と言う状態が、七、八年続ける事ができました。友部は不思議なことに、個人優勝は誰一人として無く、みんな団体優勝なのです。突出した人はなくとも誰かが良い時があつて、お互いに助け合つて勝つことが出来る、みんながそこそこだ、と言うのが面白

白い処です。しかしここ何年かは若い人の入会は少なく、今まで指導をして来られた方々も何人も亡くなられ、若い会員は結婚してはくれるが、子どもが出来て止めてしまふあり、又転勤等で他へ行ってしまふ人ありで次第に活気も無くなり、男性ではまだまだ若く元気のある方も居るけれど、女子で残った者はいずれも高齢となり体力、気力共に限界を感じ、まだ弓は引いて居るけれど、言う程度になつてしまふ。

ところがです、昨年(平成十五年)度の女子部大会で、その数少ない貴重な若手組年令はともかくとして弓を引き初めてまだ三、四年が久し振りに友部支部に団体優勝ををもたらしてくれたのです。三人の内、後はベテランの岡戸さんではあつても前の二人は、友部で引いていても目覚ましく中ると言う訳にはいかず、選を通過するや、トーナメントではかの強豪神橋チームや殿山チームに競り勝つて見事優勝してしまつたのです。私達も本当にビックリするやら、嬉しいやら、しばらくなりを潜めていた友部の女子たちがこころを来てやつと元氣を取り戻した様な気がします。期待できる後輩たちの活躍にエールを送る先輩です。

関 宗長

日本武道協議会長から
武道功労章を受賞

関 宗長茨城県弓道連盟会長は、勲日本武道協議会による武道の普及振興に特に顕著な成果をあげられた個人並びに団体に対し、武道功労章を授与し、その功績を顕彰する受章者が昨年12月4日の日本武道協議会功労表彰審議会において、全会一致で表彰が決定し、昨日1月12日、日本武道館で举行了された恒例の日本武道協議会「鏡開き式」武道始めの式において表彰されました。

表彰式では、日本武道協議会武道団体十団体で構成された堀川正十郎(前財務大臣)から、各武道団体から一人ずつ、合計十名、及び優秀団体七団体が受賞し、堀川会長から一人一人、表彰状並びに武道功労章、及びその略章が授与されました。受賞者名は、日本武道館内に永久に掲示される。

東京都千代田区北の丸公園内の日本武道館の開館以来の恒例の行事で、いかめしい日本武道館もお祝いで盛大且つ荘厳な一日でした。(柔道、剣道、相撲、空手道、合気会、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道、日本武道館から一名)

関 宗長の武道歴

創立太田一高(太田中学)で弓道を始め、

- 昭和17年 弓道初段 大日本武徳会長東條英機
- 昭和36年 茨城県弓道連盟理事
- 昭和52年 茨城県弓道連盟会長
- 昭和52年 勲全日本弓道連盟評議員
- 昭和52年 勲全日本弓道連盟理事
- 平成4年 関東地域弓道連盟 連合会長
- 平成4年 勲日本武道協議会理事 弓道代表

武道功労章受賞に寄せて

この度、日本武道協議会から、お

もいけず、武道功労章を受賞し、驚きと共に身の引き締まる思いであります。これもひとへに弓道仲間関係者の皆様のご高配の賜と心から感謝申し上げます。表彰式は去る1月12日、日本武道館大道場で、武道関係者約2000人が参加した平成16年鏡開き式、武道始めの式(開会式)で堀川正十郎日本武道協議会長から授与されました。

私の弓道入門

この機会に、私の人生と弓道とのかわり合いについて、想い出を申し上げて、お礼のご報告にいたしましたと存じます。昭和初期、私の小学生時代、私の小学校の校舎の裏に「安土」があり、村のお医者さんや店主の人が時々弓を引く姿を見たり、自慢が聞かれるうちに、弓に少しあこが

れまして、県立太田中学へ入学したとき、父が「水戸中学時代からテニス」をやっており、時々、小学校の庭でやる姿が格好良かったので、「テニスをやりたかったが、父に弓道をやらせたい」と進められて弓道部に入りました。

幸い、弓道の先生は、蘇原二郎

先生で、威厳があり、それでいてやさしい笑顔の素晴らしい弓道人でした。先生の指導は「的にあるより、大きな離れ」の中や射時には余り関心を示しませんでしたが、弓に慣れ、弓に親しむ、弓を通して、弓友が、先輩後輩が仲良くする人間修行が狙いでした。

私の弓道初段は、中学2年の昭和17年で、茨城県武徳殿で受審し、大日本武徳会長東條英機の允許状でした。当時、戦争が激しくなり、私は中学4年生の時、父が急逝し、4年生から高等商船学校(商船大

学)へ進学しました。卒業後の練習船乗船中、たった一人の兄がシベリアに抑留されて戦病死。家業を継ぐため帰郷。高等商船在学中も戦後のひとときも、砂浜に仮設の安土をつくり弓を引いたものでした。

家へ帰ってから、慣れない仕事の合間、邸の庭に矢場を作り、弓を引くのが楽しみでした。

関 宗長先生武道功労章受賞祝賀会



平成16年3月13日 於 水戸京成ホテル

すすめで、当時の古顔軍一GHQ-CIE青年指導顧問全国で35人の一人に選ばれ、水戸市に青少年指導顧問事務所を開設。アシスタントの協力を得て、民主教育の指導者として活動しました。この頃の仲間の多くが戦後政治・経済の分野で大いに活躍をさせていた

のであり、その数は枚挙にいとまがありません。

昭和27年、日本独立を機に、文部省の地方研究員、昭和28年から県社会教育課勤務を経て、秘書公徳課勤務。友木知事のあと、後進興茨城県開発のためのプロジェクトにたち上げられました。東海村原子力施設の立地など茨城県が大きく変わろうとしている時で、町村台併した地元や青年同士の推

選。昭和34年茨城県議会議員に当選。そのとき私は32歳で、当時の新聞は私を三段跳びの出世」と



平成16年3月13日 於 水戸京成ホテル

報じました。
それから、昭和47年には県議会議長に選任されるなど、多くの公務を与えられて、今年で県議勤続45年目を迎えました。振り返って、ひたすら駆け足続きの人生でしたが、多くの公務を続けていられることを只々感謝の毎日です。

県弓連とともに

時代時代の弓の先生でしたので、その後も、私にとってたいへんありがたいご縁になりました。
第一回県青年体育大会の那珂郡弓道予選会を私の庭の矢場で行いました。県庁勤務中に、県庁弓道部を創設し、当時、県会議員では、鹿島の猿田さんと私の二人、県庁では平野耕さんが中心でした。当時は、水戸の志村道場などにも通いました。

昼休みに、弘道館のお堀の中に仮設の場をおき、練習していたのが、見物人から危険だとがめられ、これが幸いして、県議会の南側の車庫の横に安土をつくり、射位にはコンクリートをうち、私が正装してもとになって、平成11年、県庁舎移転新設に合わせ、新県庁本庁舎と厚生棟の間に弓道場が新設されました。県庁内に弓道場があるのは茨城だけでしょう。昔から政(ま)つり(こ)と弓は深い関係があるので、たいへん良いことだと自負しております。

私は、昭和36年、県弓連の理事に、昭和38年に常務理事になりました。

県北地方は昔から弓道が盛んで、当時、太田では久慈浜と東海とで三和会として毎年射会を行っていました。
特に私は、太田中学の先輩でもあり、学生時代から折に触れて指導をいたっていた中野慶吉先生



武道功勞章



表彰状

からの「弓道振興に力を尽くせ」という、以心伝心の厳命が私の心を緊張させ、中野先生の弓道への強い使命感実現に私も微力を尽さねばという腹積みができてきました。
昭和52年、50歳のとき、はからずも県連会長に選任されました。その時、總會に出席していない私の

ところへ大久保義一(中野先生の太田中同級生、空閑中)から出て「はい」と連絡を受け、矢吹理事長はじめ県役員のお出迎えをうけて会長選任をしろとされ、若輩の私は、今まで、直接指導をしたたいていた矢吹理事長さんはじめ先輩幹部の皆様のご指導、ご協力の約束を頂き、就任しました。それから27年目になりますが、矢吹さん、田村さん等の先輩はじめ歴代の副会長さん、理事長だった猪野さん、関根さん、木村さん及び多数の役員の皆様のご協力で今日になりました。
この間、規約を整備し、組織機構も整えられ、お陰様で会員数も、称号有段者も倍増し、各支部も充実し、高校弓道部も74校、中学校の弓道も形を整え始めました。
特記すべきこととして、中野杯記念大会の創設、全日本選手権大会での天皇杯獲得、団体優勝、優秀地連ベストメンバーなどなど。
また、昭和57年、茨城県議会議長周年記念事業として、茨城県道館が建設され、「文武不敗」の水戸学発祥の地にふさわしい、という県民連成道場が出来、平成11年に、全弓連創立50周年記念全日本弓道選手権大会を主催するなど、全国大会も誘致出来、弓道茨城県の歴史伝統を高めることができました。
これとえに県内弓道人のご活躍の賜物で感謝に絶えないところでありませう。

そして、私は常に皆様、「弓道人として、自己の修練に努めること」はもちろん、ご参加いただきたい。興のために、ご参加いただきたい。また、「社会人として、地域社会発展のために、ご活躍願いたい。」とお願い申し上げてきたことが大きく成果をあげてきたことに喜びを感じています。
最近の世相から、「礼儀作法、倫理、道徳、社会性、責任感」が薄れてしまっているといわれています。今こそ、弓道人として、日本文化の豊かさを追求するとともに、青少年の教育に思いを致し、相共に武道を通じて、青少年の指導育成にご尽力下さるよう喫緊の課題として特にお願ひ申し上げます。
私も、責任の重大さを自覚し、更に、皆様と共に、精進努力して参りたいと存じます。
武道功勞章受賞に寄せて、私の想いの一端を申し述べ、心からの感謝、お礼のことばといたします。

武道功勞章

昭和56年度から加盟10団体のうち武道の振興に寄与し、特に顕著な成果をあげた個人及び団体に對して、その功績を永久に顕彰するため、個人及び団体を表彰するが、今年には個人10人、7団体でした。

国体天皇杯第3位・皇后杯4位
20年ぶりの快挙

◎少年女子近代的で24年ぶり
2度目の優勝

◎成年も大いに健闘で

男子 近代的4位
女子 近代的7位 遠的5位

少年女子近代的優勝で思うこと

少年女子監督 斎藤千代子

「やるしかない」という思いを込めて勝利の行方を託した決勝戦最後の矢が離れた。一瞬の空白の後、当たった。勝った。優勝だ！選手たちの肩が震えている。最高大会では遠的は失敗したものの、近的予選は19中で1位で通過。決勝トーナメント準々決勝は対高知戦に6対4で勝ち、準決勝は鹿児島に8対4で勝ち、記録は上り調子で、ついていた感がある。決勝戦は熊本代表の秀逸館高校。昨年は決勝トーナメントで接戦の末に敗れ、この夏のインターハイの優勝校でもある。相手は不足は無いところか、頼ってもない相手である。決勝は共に10中でむかえ、1本鏡射は、大前の磯山博生が1中したところで、熊本県はすでに3射2中で3人が早々と射撃わつていた。中の芦田侑果は「自分が抜いたら負けるかも知れない。何としても当てる富田に繋がなくては」との執念で引き切ったという。そして後の富田由美はこの矢を外し

たら一生後悔する、絶対に抜けない、何が何でもやり切るんだ」という一念に神様も応援してくれ、か、耳元で柴田元憲の押さえたという声が一瞬間こえたような気がして、先生と一緒に弓を引いたら、矢が真っすぐ的まで飛んで行った。当たってくれました」と興奮していた。

思えばここまで道程はかなり厳しいものであった。8月の関東ブロック予選直前にエースの友部那美が疲労骨折で選手交代を余儀なくされた。また、地元茨城開催の関東ブロック予選で求められる(必ず通過)のプレッシャーは想像以上のものがあつた。寸暇を惜しんで県武道館に通い詰め、地の利を生かした。また本会場の浜松は風が強く、床がずぶるとの情報から3回も足を運び、道場に慣れることに徹した。厳しい練習と苦悶な闘いを取りこぼした甲斐があつて、勝利であった。

茨城県の特選選手として、やるしかないという自覚と執念がチームの団結心を高め、1本を争う緊張の場面を見事な集中力で乗り切ることができたのである。

ことよりもさらに嬉しく、柴田先生への何よりの恩返しが出来た思いである。
最後に、関係各位のご協力と、県弓道連盟の皆様方の物心両面からのご支援に感謝申し上げます。

総監督

成年男子	監督	川瀬 政人
選手	菊池 誠和	
成年女子	監督	小泉 民男
選手	祖父江恵美	
少年女子	監督	石井 和子
選手	磯山 博生	
芦田 侑果	富田 由美	



茨城県選手団

弓と健康と学業

茨城大学名誉教授 荒木 修

中国の古典の一つである莊子の道遊道第一の第三章に「魏姑射の山に神人居り、肌膚冰雪のごとく、渾約処ののごし」とある。魏姑射の山と仙人とは、中国古来切つても切れない縁ありとされてきた。ここで仙人というのは仙人のことである。冰雪とは肌の白さの表現であり、渾約処とは体のたおやかなことで、たおやめ即ち処女の形容である。この三月八十七歳になるが、手の甲の皮膚は柔らかく光沢があり、青年子女のようである。家族に養われ、薪水の労がない身であり、夏涼しく冬暖かい環境にあるからである。

また、仙人のような暮らしの中に居るので、千波湖に浮かぶ仙人の如き気持ちで仙舟と号している。孔子が射込んで、心身を鍛えたという故事に学んで長寿の幸いを得た。弓は姿勢を正しく維持し、四肢の健全を維持するのに全く好適な運動である。私は中学生の頃は、勉強好きで前こみで読書していたので胃を悪くしていた。胃が痛むと弓を手にして十射至二十射し、痛みを押えた。中学校で二段、高等学校で二段、大学で三段になったが三段になる頃は胃が痛むよ

うことがなくなつた。中三の頃からカゼを引くこともなくなり、高校卒業まで無欠席だった。学校の成績は、小学校では上位、中学校では中位、高等学校では上況と関連したように思える。中学校には正式な弓道場が無く師範もいなかったし弓を学校に置く場所も無く、電車通学の私は毎日弓矢を携えて登校することもできず、つい練習不足になった。そのため健康も勝れず、病んで欠席することがしばしばあつた。

高等学校には、広大な弓道場があり毎日練習ができた。それ故カゼを引くこともなく、皆出席で卒業にあつたことが情動質を受けることになつたが一人だけ賞を受けるのが恥しく、最後一時間だけ欠席した。幸い父が弓の指導者だつたので、小さい頃から弓を習つたおかげで、健康に自信がつくともにも学問にも熱中できたことを感謝している。今日此項である。



正射正中の弓道マシンを作ろう！

川又 正昭

茨城大学工学部機械工学科の2年生の授業に「機械工学実習Ⅰ、Ⅱ」という授業があります。

授業内容を簡単に説明をしますと、実習Ⅰで機械加工の基本を習得します。(金属を削ったり、穴を開けたり、溶接したりする実技)そして実習Ⅱでは習得した技術を用いて、いよいよ具体的な「物作り」に挑戦する授業です。

この「物作り」の作品のテーマは各担当の先生が提供します。学生はこの中から好きなテーマに挑戦することにします。

まずテーマ検討会議で私の担当するテーマを「百発百中の弓道マシンを作ろう！」と出しましたところ、一部の先生から「テーマとしては不適切では」という指摘をされました。理由は「弓道は飛道具兵器だから危険じゃありませんか」。

「学生は何をするか分からないから」、「事故でも起こしたら問題だから」等々、弓道に対する一般の認識はこんなものかということが分かりました。しかも「危険」と「反応された」とも「もつとも」とも思いました。しかし、危害防止には万全を期すという事で何とかテーマの了解を得られました。

作成にあたって「正射正中」とは何か和弓の複雑な特徴を理論的に

解析する意味合いを持たせることで、テーマ名は「百発百中の表現を止めて、「正射正中の弓道マシンを作ろう！」に変更しました。

このテーマを希望した学生10人を3班に分け製作にあたる各学生を3名ずつにしました。学生達のうちの弓道経験者が2名おりましたが、ほとんど素人です。

はじめに弓の構造、機能に関して、概略説明をしてから製作に取り掛かせることにしました。弓は実物を使用し、矢は鋼矢をモデルに、弓道マシンの主要部分は胴廻りに相当する土台、手の内に相当する弓の保持装置、妻手に相当する矢の発射装置。それらについてのみで構成すること、それ以外あまり弓に対する先入観を持たせないようにして材料も含め付加機能等については各班自由な工夫、発想で製作させ彼らの創造性に期待をかけることにしました。

ただ、弓手の手の内の働きと妻手の働きについては説明を加え、特に手の内の働きが矢の方向を決定するの十分注意して製作にあつたように指示しました。

弓道に対してほとんどが未経験者のため、手の内の働きを説明しても十分理解できず、ただ弓を引ても離せば真っ直ぐ的に向かい、弓の力で自然に弓が回る(弓返り)のではないかと解釈していたよう

しかし、作成半ばの作品で実際に試射してみると弓返りはせず、矢は右側の前方奥に飛んでしまったのを彼ら自身実感として分かったようです。その後はこの事実を踏まえて弓の保持装置の手の内」にパネやゴムを使って回転運動を与える方法を考え作品をそれぞれに工夫を凝らしているようでした。

さらにもう一つの問題が発生しました。それは引き掛をする際、装置に掛かっていた中仕掛の位置を上方にすれて行ってしまう現象です。結果、矢は地面に行ってしまうことでした。原因は装置に上押しを掛けると、弓の形状から振り上がりど、下方の長さの違いが生ずる弓力のバランスの違いが原因でした。

その後も自由な作成が続けられました。本体の特長を生かして木材を主材料とした班、金属材料を

用いた班、それぞれ異なる特徴のある作品が出来上がりました。

十分に使った班、廃材を集めて製作した班などそれぞれ特徴ある弓道マシンが作られました。興味を持ってきてまだまだ改良するための十分な時間が欲しかったようでしたが、それでも試行錯誤を重ね、何とか形になったようです。完成した作品はその性能の成果を競技会で100名近くの観衆の中で披露されました。

一射ごとに歓声が！会場となったのは茨城大学工学部弓道場です。最初の作品は土台胴廻りが発射(離れ)の際、グラグラし不安定で矢射が乱れた。一応、矢は発射の方向に飛んだがどうしようもないより右方向に外れてしまふ。これは手の内の作用が不十分な事がわかりました。

弓道マシン3



弓道マシン2

弓道マシンを製作してみてもわかったことは胴廻りの大切さ、手の内」上押し、妻手などの働きが如何に大切かを再度確認した。特に上押しに関しては最初ほとんどが考慮していなかったのですが、人が弓を引く場合は中仕掛を引くことにより弓は振り上下の方の違いを無意識に自然に感じ取って上押しを掛ける状態になっている。このことを作成過程で知ることが出来たことです。(上押しをする事で弓力の違いを巧みに補う。和弓の特徴ある形状を使いこなす必要な操作ということでしょうか)

「正射正中の弓道マシン」を目標し基本的には成功しました。上押し問題のように弓道マシンから教えられることが多々あり、私自身も和弓の特徴を見なおす良い機会となりました。



弓道マシン3

県内道場一覧(地区別)

平成16年2月 現在

注:(公)国県市町村立・(企)企業・(大)大学・(個)個人

地区	運営	名称	所在地	連絡先	規模	備考
北地区	公	大子町弓道場	大子町大子771	0295-72-0726	3人立	無料、問合せは支部長迄、8:00～18:00
	公	常陸太田市宮弓道場	常陸太田市新宿町1	0294-72-6510	5人立	山吹公園内、9:00～12:00・13:00～17:00 半日(個)740円、(団)1,480円 全日(個)1,680円、(団)3,360円
	公	水府村弓道場	水府村町田710	0294-85-1311	3人立	有料、問合せは水府海洋センター迄
	個	猪野弓道場	那珂郡那珂町 後台3168-2	0292-98-6130	3人立	問合せは道場主迄
	個	諏訪神社先心館	大子町小生瀬2845	0295-76-0523	3人立	無料、問合せは道場主迄、8:00～16:00
	個	関道場	那珂郡那珂町 額田東郷1	0292-98-6211	2人立	問合せは道場主迄
日立地区	個	宮崎弓道場	那珂郡那珂町中台 471-13	0294-37-0835	3人立	問合せは道場主迄
	公	北茨城市民弓道場	北茨城市磯原町 磯原1630	0293-43-1152	5人立	市内(個)一日使用(9:00～17:00)70円 午前30円、午後40円、夜間60円、貸切午前310円 貸切午後520円、貸切夜間630円、市外者は全て2倍額
	公	原研弓道場	那珂郡東海村白方2-4		5人立	一般開放していません
	公	東海村総合体育館 弓道場	那珂郡東海村舟場768	0292-83-0673	6人立	午前 午後 夜間 全日 個 100円 100円 100円 150円 団 400円 600円 800円 1,800円
	公	日立市弓道場	日立市久慈町3-42	0294-53-7810	3人立	無料、利用手続き要9:00～21:00月曜休館日
	企	新道館弓道場	日立市白金町2-20-6		5人立	一般開放していません
	企	会瀬武道館	日立工場日立会	0294-33-3895	4人立	一般開放していません
	大	射徳館	日立市中成沢町 4-12-1	0293-32-5580	5人立	利用手続き要
	個	五米道場	日立市久慈町3-47-10		3人立	問合せは日立支部長迄
	水戸地区	公	茨城県武道館	水戸市新原2-11-1	0292-51-8444	12人立
公		興庁道場	水戸市笠原978-6	029-301-5940	3人立	午前、午後、夜間、各100円、土曜日(職員練習日) 福利厚生棟窓口迄
公		笠岡市武道館弓道場	笠岡市石井144	0296-72-2101	5人立	無料、申込みは体育館事務所へ、夏季、学生の合宿有り
公		松戸体育館弓道場	ひたちなか市 松戸2-6-1	029-274-8273	3人立	有料、年間を通し市弓道連盟が使用の為問合せ必要
公		友部町立弓道場	西茨城郡友部町 橋爪586-4	0296-77-1101	4人立	無料、申込み先、町役場生涯学習課



水戸	公	ひたちなか市 総合体育館弓道場	ひたちなか市新光49	029-273-9370	6人立	個人300円(2時間)、高校生以下200円 団体1,000円(1時間)、照明料100円(1時間) 14近郊市町村以外は別料金の為問合せ要
	公	湊弓道練習場	那珂湊市巽治窪3566	029-263-6635	3人立	有料、年間を通し湊弓道連盟が使用の為問合せ必要
	個	清心館弓道場	那珂湊市田中3-1	029-263-7023	2人立	一般開放していません
	個	村越弓道場	大洗町磯原2870-2	029-266-2524	2人立	問合せは道場主迄
石岡	公	航空自衛隊百里弓道場	小川町百里170	0299-46-0167	5人立	一般公開していません
	公	美野里町弓道場	美野里町中代559	0299-46-0167	3人立	土曜日(支部練習日)、町外者有料 詳細は管理事務所迄
	公	八郷町弓道場	八郷町野田600	0299-43-6884	6人立	管理事務所まで申請、町外者有料、(午前 午後 夜間 全日) 個人 450円 520円 650円 970円 団体 1,830円 2,100円 2,620円 3,930円
	個	静心館弓道場	新治郡玉里村 高橋1824-399	0299-26-6508	5人立	問合せは道場主迄
個	芹沢弓道場	石岡市総社2-4-3	0299-23-4853	2人立	問合せは道場主迄	
鹿行	公	麻生町運動公園弓道場	行方郡麻生町南269	0299-77-0791	6人立	有料、団体3,600円(午前)、5,200円(午後、夜間) 申込み先 管理事務所
	公	鹿島神宮弓道場	鹿嶋市宮中2306-1	0299-82-1209	3人立	100円(市内外共)土、日は地元弓友会使用神宮の森に囲まれ静寂、威厳ある造りの歴史感させる道場
	公	カシマスポーツ センター	鹿嶋市神向寺23-2	0299-83-1600	6人立	月曜以外9:00~21:00迄利用可能。個人(3時間300円) 団体(1時間1,000円)市内外問わず、事務所で利用券購入設備完備、体配補充に十分なスペース有り
	公	神栖町武道館弓道場	神栖町溝口4991-10	0299-96-7700	6人立	月曜休館、使用申請要、個人2時間100円 団体午前600円・午後800円・全日3,200円 町外者は全て2倍額、支部練習日有
	公	玉造町民弓道場	行方郡玉造町乙1179	0299-55-0171	3人立	無料、9:00~22:00(玉造町中央公民館) (火、金)20:00~22:00と (日)10:00~12:00は地元弓友会使用
	公	波崎町弓道場	鹿島郡波崎町9584	0479-44-5581	5人立	月曜休館9:00~21:00(年末年始休館除く)1時間 個人50円 (町外者150円)、団体 個人料金×人数、木曜18:00~21:00 (体道弓道部練習)春、夏は大学合宿等に利用、観光地多く有
	公	鉾田総合公園弓道場	鉾田町当間2331	0291-33-3340	6人立	8:30~21:30 管理事務所まで随時受付、2時間単位(町内 100円、町外200円)、団体(520円)は登録団体に限る
	企	至徳館道場	潮来市下町325	0299-63-2069	3人立	年間を通して毎日利用可能、22:00迄、支部員練習日火曜、木曜(19:00~22:00)利用料は市の助成金と後援会費で賅っている、後援会外者は問合せ要
	企	三菱化学鹿島事業所	鹿島郡波崎町砂山14		4人立	事業所内に設置されており、一般開放していません
	個	三盛館弓道場	行方郡北浦町 小貴1681-1	0291-5-2636	3人立	問合せは道場主迄
土浦地区	公	いなしき青年の家 弓道場	稲敷郡桜村柏木4-1	029-894-2855	3人立	老朽化のため同好会員のみに開放 新設検討中
	公	霞ヶ浦町立弓道場	霞ヶ浦深谷	029-869-1273	5人立	無料、月曜休館、使用可能時間(8:30~22:00) 連絡は支部長迄

土浦	公	土浦市武道館	土浦市文京町10-16	029-822-8730	6人立	年末年始以外休館日無、手続きは事務所窓口で団体は2ヶ月前に申請、料金は市民・部員・市外者・超過料等細分されている。
	大	筑波大春日地区弓道場	つくば市春日1-2	029-853-2971	8人立	原則として一般開放していません
	大	筑波大大運動館弓道場	つくば市天王台1-1-1	029-836-5253	10人立	原則として一般開放していません
地区	個	風遊館国谷弓道場	新治郡新治村 本郷2168	029-862-4692	4人立	無料、休館日無し、電話で予約要、土曜日は支部練習日 眼下の光景抜群
	個	堀(弓員店)弓道場	土浦市蓮河原新町9-9	029-821-6804	3人立	無料、当日でも可、但しや備品等は持参する事
	個	養賢館弓道場	霞ヶ浦牛渡4397	029-898-2755	3人立	無料、問合せは道場主迄、樹齢300年の椎の木に抱かれている静かな道場
県西地区	公	下館市立弓道場	下館市下中山732-1	0296-24-2111	5人立	有料、会員制(年間6,000円)問合せ、申込みは下館支部長または社会福祉課(0296-28-5040)迄
	企	日立化成五樓館弓道場	下館市日立化成	0296-28-2222	6人立	有料、部員同席の上個人使用可 問合せ、申込みは日立化成支部長迄
	個	即心館(張替道場)	猿島郡猿島町 番掛5913	0297-44-3735	3人立	問合せは道場主迄
県南	公	牛久市置弓道場	牛久市越中1865	029-874-7572	5人立	月曜休館9:00~21:00利用手続要、個人(2時間)、市内者300円、市外者450円
	公	取手市グリーンスポーツセンター	取手市野々井	0297-75-9090	5人立	月曜休館9:00~21:00利用手続要 個人(市内者)午前、午後、夜間300円 団体3,000円(市外者450円、4,500円)
	公	藤代勤労者体育センター	北相馬郡藤代町 藤代430	0297-83-2111	5人立	(月曜休館日)9:00~21:00団体は町体協加盟に限る
大	流通経済大学弓道場	竜ヶ崎市120	0297-64-0001	5人立	問合せは大学迄	

県内高等学校道場一覧(地区別)

平成16年2月 現在

注:(公)公立高校・(私)私立高校

地区	運営	名称	所在地	連絡先	規模	備考
北地区	公	高萩高等学校	高萩市大字高萩111	0293-22-3161	5人立	
	公	日立第一高等学校	日立市若菜町3-15-1	0294-22-6488	6人立	
	公	日立商業高等学校	日立市久慈町6-20-1	0294-52-4779	5人立	
	公	磯原高等学校	北茨城市磯原町磯原912	0293-42-0260	6人立	
	公	太田第一高等学校	常陸太田市栄町58	0294-72-2114	8人立	
	公	太田第二高等学校	常陸太田市新宿町210	0294-72-2136	5人立	
	公	佐竹高等学校	常陸太田市稲本町155	0294-72-3333	5人立	
	公	里美高等学校	久慈郡里美村折橋27-2	0294-82-2330	5人立	
	公	大子第二高等学校	久慈郡大子町北田寛798	02957-2-0147	6人立	
水戸地区	公	水戸第一高等学校	水戸市三の丸3-10-1	029-224-2254	6人立	
	公	水戸第二高等学校	水戸市大町2-2-14	029-224-2543	5人立	



水戸地区	公	水戸第三高等学校	水戸市三の丸2-7-27	029-224-2044	6人立	
	公	緑岡高等学校	水戸市笠原町1284	029-241-0311	5人立	
	公	水戸工業高等学校	水戸市元吉田町1101	029-047-5711	5人立	
	公	桜ノ牧高等学校	水戸市小吹町2070	029-243-3644	5人立	
	公	佐和高等学校	ひたちなか市稲田636-1	029-285-1819	5人立	
	公	那珂湊第一高等学校	ひたちなか市山の上町4-6	029-262-2278	4人立	
	公	那珂湊第二高等学校	ひたちなか市牛久保1-10-18	029-263-7125	6人立	
	公	笠間高等学校	笠間市笠間1668	0296-72-1171	10人立	
	公	大宮高等学校	那珂郡大宮町3257-2	02955-2-2175	5人立	
	公	常北高等学校	東茨城郡常北町春園1634	029-288-2028	5人立	
	公	茨城東高等学校	東茨城郡茨城町大字小幡2524	029-292-6245	5人立	
	公	那珂高等学校	那珂郡那珂町後台1710-1	029-295-2710	5人立	
	私	茨城高等学校	水戸市八種町16-1	029-221-4936	5人立	
	私	水城高等学校	水戸市白梅2-1-45	029-247-6509	3人立	
県東地区	公	鉾田第一高等学校	鹿島郡鉾田町鉾田1090-2	0291-3-2161	6人立	
	公	鉾田第二高等学校	鹿島郡鉾田町鉾田1158	0291-3-2171	6人立	
	公	玉造工業高等学校	行方郡玉造町芹沢1552	0299-55-0138	6人立	
	公	潮来高等学校	行方郡潮来町延方3025	0299-66-2142	10人立	
	公	鹿嶋高等学校	鹿嶋市城山2-2-19	0299-82-1903	5人立	
	公	神栖高等学校	鹿島郡神栖町高浜1468	0299-92-4169	5人立	
	私	清真学園高等学校	鹿嶋市宮中4448-5	0299-83-1811	8人立	
県南地区	公	土浦第一高等学校	土浦市真鍋町4-4-2	0298-22-0137	5人立	
	公	土浦第二高等学校	土浦市立田町9-6	0298-22-5027	6人立	
	公	土浦第三高等学校	土浦市大岩田町1599	0298-21-1605	5人立	
	公	土浦工業高等学校	土浦市真鍋町6-11-20	0298-21-1953	5人立	
	公	石岡第一高等学校	石岡市山王台町3422	0299-22-4135	5人立	
	公	石岡第二高等学校	石岡市府中5-14-14	0299-23-2101	6人立	
	公	石岡商業高等学校	石岡市東光台3-4-1	0299-26-4138	5人立	
	公	小川高等学校	東茨城郡小川町大字小川650	02995-8-1403	5人立	
	公	八郷高等学校	新治郡八郷町柿岡1604	0299-43-0142	6人立	
	私	土浦日大高等学校	土浦市小松ヶ岡町4-46	0298-22-3382	5人立	
	私	霞ヶ浦高等学校	稲敷郡阿見町青宿50	0298-87-0013	5人立	
	公	竜ヶ崎第二高等学校	竜ヶ崎市古城3087	0297-62-3078	5人立	
	公	竜ヶ崎南高等学校	竜ヶ崎市北方町120	0297-64-2167	5人立	
	公	江戸崎高等学校	稲敷郡江戸崎町甲4762	0298-92-2103	5人立	
公	取手第一高等学校	取手市台宿2-4-1	0297-72-1348	3人立		
公	取手第二高等学校	取手市東2-5-1	0297-73-0048	2人立		
公	藤代高等学校	北相馬郡藤代町毛有り640	0297-82-6283	5人立		
公	牛久高等学校	牛久市岡見町2081-1	0298-78-6220	5人立		

東 南 地 区	私	東洋大久高等学校	牛久市柏田町1360-2	0298-72-0350	5人立	
	私	爱国学園大学付属竜ヶ崎高等学校	竜ヶ崎市若柴町2747	0297-66-0757	2人立	
	私	聖徳大学付属聖徳高等学校	北相馬郡藤代町山王1000	0297-83-8111	3人立	
	私	江戸川学園取手高等学校	取手市西1-37-1	0297-74-8771	5人立	
東 西 地 区	公	筑波高等学校	つくば市北条4387	0298-67-0041	5人立	
	公	竹園高等学校	つくば市竹園3-1218	0298-51-7515	5人立	
	公	岩瀬高等学校	西茨城郡岩瀬町1511-1	0296-75-2475	5人立	
	公	下館第一高等学校	下館市下中山590	0296-24-6344	6人立	
	公	下館第二高等学校	下館市岡岸1119	0296-22-5361	4人立	
	公	下妻第一高等学校	下妻市下妻乙226-1	0296-44-5158	6人立	
	公	下妻第二高等学校	下妻市下妻乙347-8	0296-44-2549	5人立	
	公	真壁高等学校	真壁郡真壁飯塚210	0296-55-3715	5人立	
	公	八千代高等学校	結城郡八千代町平塚4824-2	0296-48-1836	5人立	
	公	水海道第一高等学校	水海道市亀岡町2543	02972-2-0029	5人立	
東 西 地 区	公	古河第二高等学校	古河市幸町19-18	0280-76-4959	4人立	
	公	三和高等学校	猿島郡三和町五部54-1	0280-76-4959	5人立	
	公	境高等学校	猿島郡境町175	0280-87-0123	8人立	
	公	守谷高等学校	北相馬郡守谷町大字大木70	02974-8-6409	5人立	

県内中学校道場一覧

平成16年2月 現在

注：(公)公立中学・(私)私立中学

運営	名称	所在地	連絡先	規模	備考
公	水戸第二中学校	水戸市三の丸2-9-22	029-224-4422	3人立	
公	東海中学校	那珂郡東海村舟石川825	029-282-1625	6人立	
公	東海南中学校	那珂郡東海村舟場768	029-282-7821	5人立	
私	茨城中学校	水戸市八幡町16-1	029-221-4936	5人立	
公	稲田中学校	笠間市稲田2145-2	02967-4-2004	4人立	
公	明光中学校	東茨城郡茨城町谷田部510	029-292-0154	2人立	16年度より外部
公	内原中学校	東茨城郡内原町内原1463	029-259-2032	3人立	
公	愛宕中学校	竜ヶ崎市3777	02976-2-1209	5人立	
公	城西中学校	竜ヶ崎市河原代町710	02976-6-4157	3人立	
公	阿見中学校	稲敷郡阿見町中央1-2-1	0298-87-0028	5人立	
公	竹末中学校	稲敷郡阿見町竹末400	0298-87-1201	3人立	
公	朝日中学校	稲敷郡阿見町荒川本郷1855-1	0298-42-7771	4人立	
公	千波中学校	水戸市元吉田町599-2	029-248-4300	3人立	
公	城ノ内中学校	竜ヶ崎市城ノ内5-3	0297-62-2372	3人立	
公	山方中学校	那珂郡山方町山方3267	0295-57-2802	3人立	一般開放(土・日)
私	清真学園中学校	鹿嶋市宮中伏見4448-5	0299-83-1811	6人立	

弓道場紹介

(P2・P3・P5の下段を含む)



斯道館弓道場



神栖町弓道場



霞ヶ浦町立弓道場



養気館弓道場



波崎町弓道場



麻生町弓道場

第一回全国中学生弓道大会

目的

中学校教育の一環として、中学校生徒に広く弓道競技の実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚をはかり、心身とも健康な中学校生徒を育成するとともに中学校生徒の相互の親睦をはかるものである。

主催

全日本弓道連盟

後援 文部科学省、日本中学校体育連盟、東京都、東京都教育委員会、東京都体育協会、明治神宮他

主管

東京都弓道連盟連合会

1. 期日

H16年8月16日(月)～18日(水)

2. 会場

明治神宮武道場至誠館

(東京都渋谷区代々木神園町1-1)

3. 大会日程

・8月16日(月)

14時審判会議、16時開会式

・8月17日(火)

団体予選、個人予選

・8月18日(水)

決勝トーナメント、閉会式

4. 競技規則

全日本弓道連盟「競技規則」並びに本大会競技規則による。

5. 競技内容

①種類

・団体競技(直径36cm楕形的)

・個人競技(直径36cm楕形的、直径24cm星形的)

②種目 直徑24cm星形的

③種別 近目的競技(坐射)

・男子の部、女子の部

④参加人員

・団体(選手3人、補欠1人、監督1人)

・個人(選手1人、監督1人)

6. 参加資格

健康上支障のないと認められた中学生で、県連会長が認めた団体

7. 競技方法

・団体競技

予選：団体24射、16チーム決勝

決勝：団体12射、トーナメント

・個人競技

予選：8射(4射2回)、男子6

中、女子5中以上を通過

決勝：射詰競技

8. 参加制限

・各都道府県、両種別共団体戦は各1団体、個人戦は各1人と

する。

9. 表彰(両種別共通)

①団体競技

上位8団体を表彰する。

優待(1団体)

2位(1団体)

3位(2団体)

4位(4団体)

イ優秀団体にイ優秀旗を授与する(持回り)。
ウ技能優秀団体を選出し技能優秀杯を授与する(持回り)。

②個人競技

A8位まで表彰する。

I優勝者には優勝杯を授与する。

ウ技能優秀者には技能優秀杯を授与する。

10. 申込要領

①所定の申込用紙(4枚複写)に必要事項を記入の上、所属地連の都道府県弓道連盟連地連会長の認証を受け、うち2枚を左記の申込先に提出のこと。残り2枚は出場団体及び所属地連の控えとする。

②申込先

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育館内

財団法人全日本弓道連盟宛

電話 03-3481-2387

FAX 03-3481-2398

③申込期限

8月2日(月)

11. 立順

①予選立順の組合せ抽選は実行委員会において行う。

②決勝トーナメントの組合せは予選終了後、抽選で決定する。

12. 詳細は「弓道」3月号参照のこと。

平成16・17年役員

(H16・3・28理事会)

名誉会長	宗良	田原	猛
会長	関根	トシ	夫
副会長	関根	トシ	夫
副会長	白石	直之	
監事	久保田	清	
理事	堀野	昇	
副理事長	北島	瑞男	
理事	宮崎	康美	
理事	庄司	幸夫	
理事	須田	康勝	
指導部長	川瀬	政人	
競技部長	山口	宇一郎	
審査部長	川瀬	政人	
施設部長	川瀬	政人	
強化部長	川瀬	政人	
会長推薦理事	天	牙子	
	市毛	謙一	
	張替	謙一	
	海老根	芳江	
	助川	未廣	
	大賀	富士男	
	山崎	和雄	
	泉	正宏	
	介川	達	
	白鳥	悦男	
	森	雄二	
	高木	勉	
	庄司	幸夫	
	伊藤	利之	
	勢司	利之	
	須藤	岳	

編集後記

「弓道いはらき」の編集にあたって、今までと形を変えて斬新な紙面づくりをしようということになりました。

一つは、昨年の秋季団体少年女子で、石岡商業高校が、近目的競技で優勝という輝かしい成績を残してくれたニュースです。

もう一つは、県内の総での施設を紹介してみました。精選の地点として参考になれば幸いです。なお、弓友の皆さんから、今回多くの記事をお寄せいただき、よりよい紙面ができたことを感謝いたします。

入江 記

広報部

部長(編集委員)	介川	達
副部長(編集委員)	宮崎	康美
副部長(編集委員)	堀野	昇
副部長(編集委員)	須田	康勝
副部長(編集委員)	山口	宇一郎
副部長(編集委員)	川瀬	政人
副部長(編集委員)	天	牙子
副部長(編集委員)	市毛	謙一
副部長(編集委員)	張替	謙一
副部長(編集委員)	海老根	芳江
副部長(編集委員)	助川	未廣
副部長(編集委員)	大賀	富士男
副部長(編集委員)	山崎	和雄
副部長(編集委員)	泉	正宏
副部長(編集委員)	介川	達
副部長(編集委員)	白鳥	悦男
副部長(編集委員)	森	雄二
副部長(編集委員)	高木	勉
副部長(編集委員)	庄司	幸夫
副部長(編集委員)	伊藤	利之
副部長(編集委員)	勢司	利之
副部長(編集委員)	須藤	岳